

中世の土壌 (第85号土壌)



中・近世の遺構

中・近世の遺構は、おもに台地上の平坦部で見つかり、掘立柱建物跡1棟、土壌4基、井戸跡1基、溝跡6条が検出されました。

この土壌から、多くの土師質の土器(かわらけ)が見つかりました。「どうして？」の答えは、ただ今調査中です。



宮前遺跡周辺の遺跡



台地・段丘 自然堤防 氾濫平野 河川

「国土地理院 地理院地図」と「埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ」より作成

宮前遺跡は、大宮台地の北西部に位置します。遺跡の南側には、谷が樹枝状に入り込んでいます。宮前遺跡はこの谷を臨む台地の縁辺に形成されています。周辺には多くの遺跡が分布し、北側の平右衛門遺跡(2)では奈良・平安時代の住居跡が多数見つかりました。中世から近世では、九右衛門遺跡(4)や伝源経基館跡(14)のほか、在地有力者の館(屋敷)と推定されている宮前本田遺跡(8)があります。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 宮前遺跡 | 12 根際遺跡 |
| 2 平右衛門遺跡 | 13 城山遺跡 |
| 3 箕田古墳群 | 14 伝源経基館跡 |
| 4 九右衛門遺跡 | 15 前通遺跡 |
| 5 富士山遺跡 | 16 二本木遺跡 |
| 6 富士山南遺跡 | 17 神明遺跡 |
| 7 宮前本田北遺跡 | 18 宮地3丁目遺跡 |
| 8 宮前本田遺跡 | 19 栄町遺跡 |
| 9 登戸新田北遺跡 | 20 鴻巣御殿跡 |
| 10 登戸新田遺跡 | 21 本田二ノ割遺跡 |
| 11 登戸本村遺跡 | 22 糠田古墳群 |

みやまえ 鴻巣市 宮前遺跡 (第3次)



宮前遺跡の発掘調査は、一般国道17号(上尾道路II期区間)建設事業に伴って、令和3(2021)年7月から開始しました。今年度の調査が第3次調査となります。

宮前遺跡では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中・近世の遺構や遺物が見つかりました。

今回の見学会では、縄文時代の土壌と、奈良・平安時代の竪穴住居跡、中・近世の土壌などを御覧いただきます。

主催 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

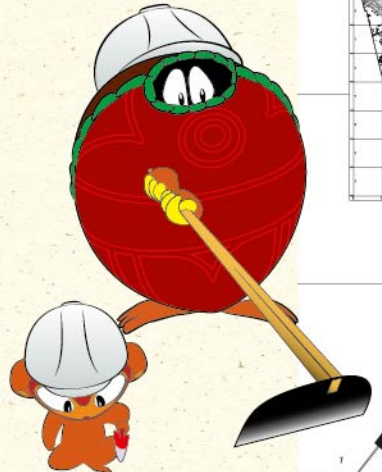
後援 鴻巣市教育委員会

共催 国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所

埼玉県教育委員会

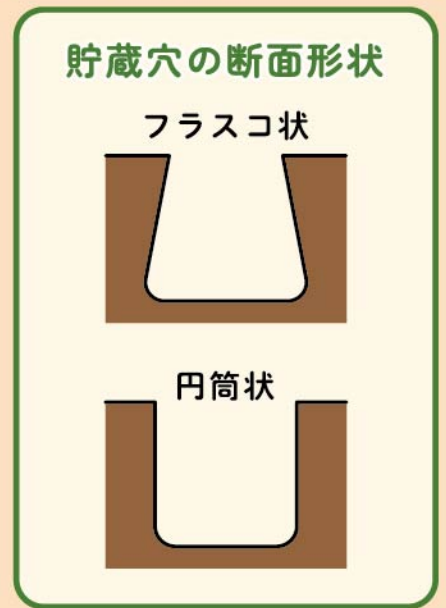
調査区全体図

第3次調査は、黒い線で囲んだ区画となります。今回は、縄文時代の土壌、奈良・平安時代の竪穴住居跡と中・近世の土壌を中心に紹介いたします。



■ 縄文時代	土壌	21基
■ 古墳時代	竪穴住居跡	1軒
■ 奈良・平安時代	竪穴住居跡	22軒
■ 中・近世	掘立柱建物跡	1棟
	土壌	4基
	(地下式坑)	2基
	井戸跡	1基
	溝跡	6条

縄文時代の土壌



縄文後期の袋状土壌 (第147号土壌)

台地を中心に20基以上見つかっています。開口部よりも底部が広がる形状の穴は、袋状土壌やフラスコ状土壌などと呼ばれています。調査では円筒状のものも見つかっています。これらは当時、食糧としていた木の実などを貯えた屋外の貯蔵施設と考えられています。

奈良・平安時代の竪穴住居跡

奈良・平安時代の竪穴住居跡は、22軒見つかりました。その中で、第12号住居跡は最も規模の大きい住居です。

調理施設のカマドは当初、北側に設置されていましたが、後に東側に付け替えられています。



住居内から、須恵器の坏が見つかりました。



東側のカマドには、土師器の甕が骨組みとして再利用されていました。